

『さよなら』が言えなくて



kaoru

Dearest

He is my love and my life.

May her soul rest in peace

forever in my heart.....



人間は

みんないつかは死ぬものだ

不老不死なんてないんだもの

生まれた瞬間から

死に向かって歩き始めてる

始めから

自分がどんな死を迎えるかなんて

誰にもわからないこと

でも

いつか来る死に出会った時

ちょっとでもいい

一秒でもいい

『ありがとう、なかなか味のある人生だった』

なんて思えたら

結構素敵だなんて思います

生きる長さは人それぞれで

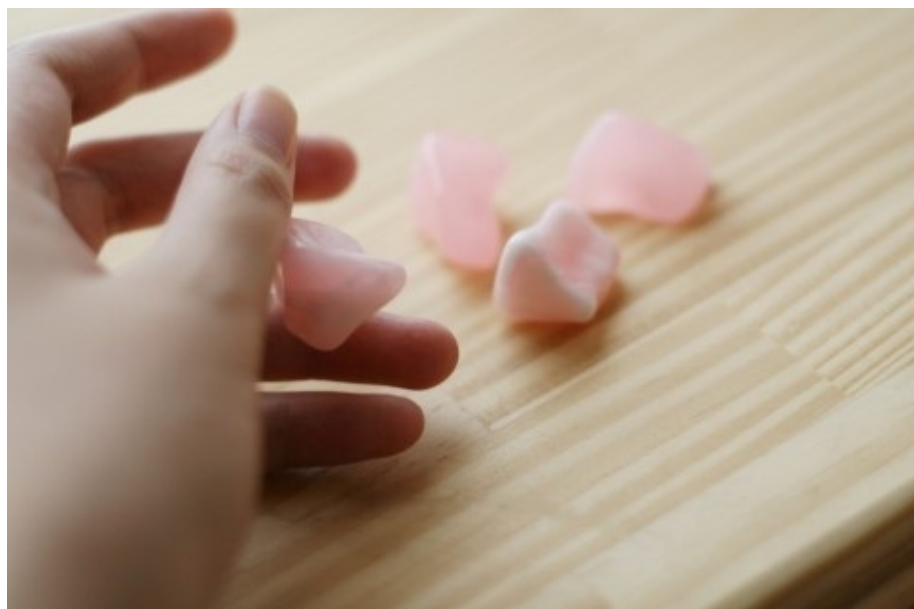
幸せを感じる暇もなく

終わる人間もいる

そう考えると

とても

とても



あなたの平熱体温

【36.4度】

わたしの平熱体温

【35.2度】



人目を気にせず大声で笑う

そうやって私のことまたからかって

本当に子供みたい

あっ、唾飛んできた

もう、どこまでも子供なんだから



『腹減った。』

『さっき食べたんでしょ??』

『. . . 腹減った。』

『. . . 』

『腹減った～。』

『. . . 何食べる??』

『カップ麺でいいや。』

『. . . 体に悪いよ。』

『うん。』

『何か簡単なもの作るよ。』

『ダメ!!』

『なんで??』

『君は休んでなきゃダメなのっ。』

『どうして??』

『. . . いつも俺がしてもらってるから、今日は俺が作る。』

『. . . ありがとう。』

仕事終わるまで待っててくれたんだ

メールでは食べたって言ってたくせに

素直じゃない人

私の帰り何時だと思ってるの??

明け方だよ??

夕食ぐらい食べてていいのに. . .

本当に

子供みたい

素直じゃないんだから

ありがとう。



暇さえあれば弾いてる

いや

暇じゃなくても弾いてる

音楽馬鹿さんめ

少しは構いなさいよ

二人でいるのに

このギター馬鹿め

怒りと寂しさを込めて頭にチョップ

あっ振り向いた

『. . . 』

『. . . 』

. . . あっ

おでこにキスしやがった

なんて奴だ

そんなんで騙されてたまるか

.....

まあいっか

音楽大好きで

ギター馬鹿なこの人の姿も

嫌いじゃないし

今日ぐらい大目に見てやる

なんか、おでこ熱いなあ...

心なしか顔も熱い

理想の愛てなんだろう？

理想の愛の形ってあるのかな？

理想の恋人ってどんなもの？

そもそも

理想の『理想』ってなんだろうね

人それぞれなんだろうけど

やっぱりどこかで基準なんてものを求めてしまう

私達は私達なりの恋愛ってものをすればいい

そんなの分かってる

でも

たまに人と比べてしまう

あの人達はもっと...

だとか

あの子達はきっと...

なんてさ

なんでだろう??

隣の芝生は青く見える

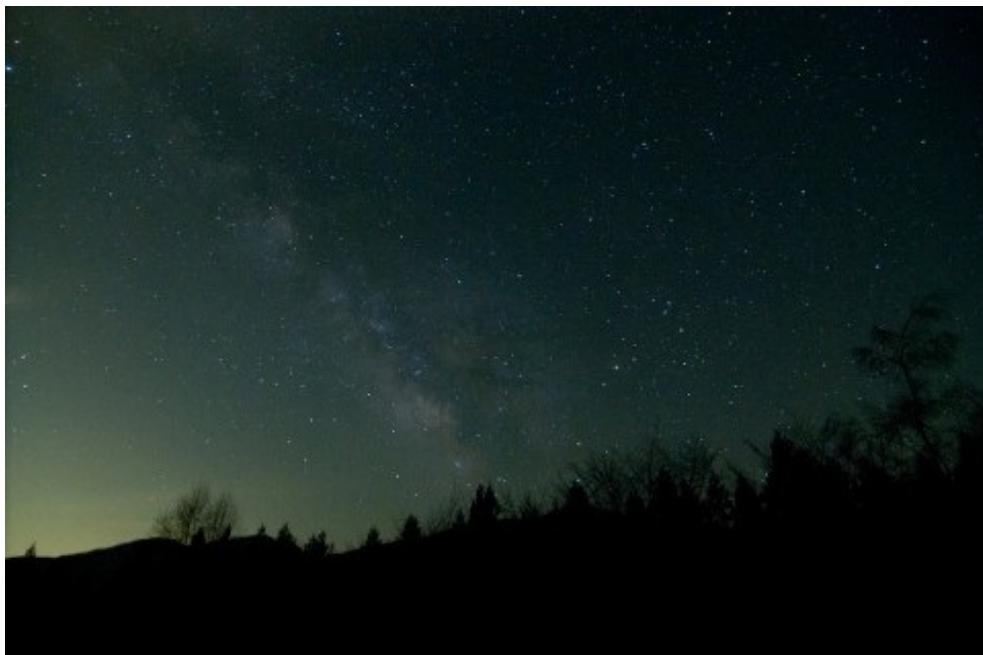
そんな感じなのかな？

それとも

大切な人だからこそ

もっと知りたくなるし

もっと我儘に求めてしまってるのかな？



ただ、ふっと思っただけ

ただ、ふっと思っただよ

ただ ただ ただ

『今すぐ君に会いたい』

そう

ふっと、そう思ったんだよ



ただ、ふっと思っただけ

ただ、ふっと思っただけなのよ

ただ 　ただ 　ただ

『今すぐあなたに会いたい』

そう

ふっと、そう思ったのよ



凄く驚いたんです

こんなにも違うものなのかと

あなたがいなくなって感じた

あなたの存在が記憶にしっかりと刻まれているのに

あなたは実体を持たない

それだけで

こんなにも景色が違うのかと

凄く

驚いたんです

同時に

今さらになって

何リットルもの涙が

何粒もの涙が

私の頬を伝っていった



限られた時間だった

命の残量はきっとあと少し

でも

まだ大丈夫

まだいける

まだまだ

一緒だよ



私の方があなたの近くにいるのに

私よりもあなたに寄り添うこの病魔が

憎くて

憎くて 憎くて

憎くて

どうしようもなく憎くて

悔しくてたまらなかった....



あなたじゃなくてもいいじゃない

こんなもの

いらない

別の誰かのところにいけばいい

なんて

思っちゃいけないことだと言い聞かせても

毎日毎日

祈ってた

我ながら

なんて傲慢で

自分勝手な女なんだと

溜息が出た

それでも

やっぱり祈らずにはいられなかった....



零れ落ちてく滴

拭うあなたはもういない

時計の針

カチコチ カチコチ

妙にリアルで耳障り

あなたは確かに言った

『大丈夫』だって

ランプが消えた扉

あなたは帰ってこなかった

消毒液みたいな独特なこのニオイが嫌い

でも嘘つきはもっともっと嫌い

出来もしない約束なんてしないで

残されるほうの気もしらないで

あなたはそれでも『大丈夫』だなんて嘘を吐く

そんな優しさいらないのに

あなたがいないと意味がない

それでもあなたは笑ってた

『大丈夫』だなんていいながら

一生懸命笑ってた

あなたの平熱体温36.4度

わたしの平熱体温35.2度

でも

今はあなたの方が

ずっと ずっと冷たい

もう私なんかの体温じゃどうにもならないくらい

本当にもう

冷たかった...

ねえ

私の愛した人

私はね

何十年も経って容姿が変わっていってしまうより

何十年も経って死んでしまうより

何よりも

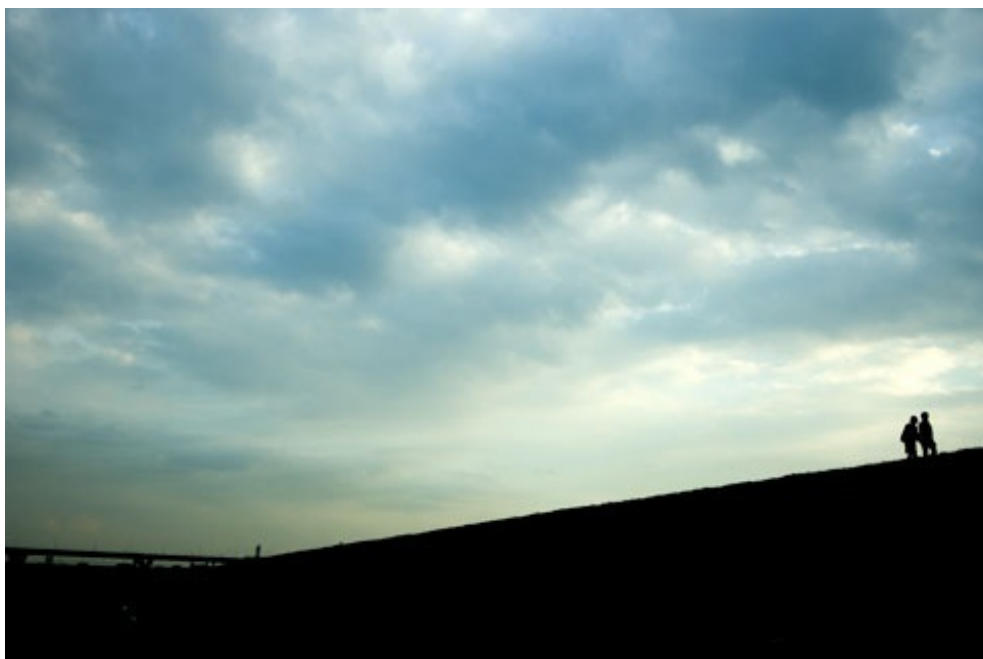
何十年も経って

あなたのことを記憶出来なくなっていくこの記憶力のほうが

ずっと

ずっと ずっと

怖い



貴方に未練はない

でも

貴方に心残りはあるんです

ただ

たった一言



『さよなら』が言えなくて